

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
岡山科学技術専門学校	昭和62年10月19日	大月 秀之	〒700-0034 岡山県岡山市北区高柳東町7番15号 (電話) 086-255-4822																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 岡山科学技術学園	昭和62年10月19日	瀬戸川 正彦	〒700-0032 岡山県岡山市北区昭和町8番10号 (電話) 086-255-7171																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程	国際自動車工学科		平成29年文部科学省 認定	-																						
学科の目的	国土交通省の一種養成施設校として、自動車整備に関する専門知識や技術・技能について座学および実習を通して体験的に学習する。さらに、実践力の向上と仕事に対する厳しさを学び、関連した資格取得を目指す。																										
認定年月日	令和5年4月1日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	2,400	960	0	1,440	0	0																				
	単位時間																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
225人	113人	113人	5人	2人	7人																						
学期制度	前期: 4月1日～9月30日 後期: 10月1日～3月31日		成績評価		成績表: 有 成績評価の基準・方法 ・成績の評価は、試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価する。 ・評定は、S、A、B、C、Dの5段階とし、C以上をもって認定とする。																						
長期休み	学年始: 4月1日～始業日前日 夏季: 8月上旬～8月31日 冬季: 12月下旬～1月7日 学年末: 3月下旬～3月31日		卒業・進級条件		次の条件を満たしていること。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。																						
学修支援等	クラス担任制: 有 個別相談・指導等の対応 関係機関との連携		課外活動		課外活動の種類 学校行事、ボランティア活動等 サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 岡山トヨペット(株)、(株)ホンダカーズ三重、(株)ホンダカーズ倉敷東、岡山ダイハツ販売(株)、(株)ホンダ四輪販売岡山、(株)ネクステージ、広島日野自動車(株)、トヨタカラー南海(株)、(株)ホンダカーズ三重東、(株)UDトラックス、ヤマトオートワークス(株)、コマツカスタマーサポート(株)、ネットヨタ中央大阪(株)、山陽村上モーター(株)、(株)西崎自動車、瀬戸内自工(株)、(株)ティーエス自動車、(株)福山自動車検査場、(株)MOUNTOOK、(株)キンタ 就職指導内容 面接 履歴書の書き方、労働に対する考え方指導 卒業生数 65人 就職希望者数 61人 就職者数 61人 就職率 100% 卒業者に占める就職者の割合 94% その他進学者数 0人 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>64人</td> <td>62人</td> </tr> <tr> <td>2級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>64人</td> <td>64人</td> </tr> <tr> <td>日本語能力試験 N1</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>日本語能力試験 N2</td> <td>③</td> <td>63人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) 自由記述欄			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級ガソリン自動車整備士	②	64人	62人	2級ジーゼル自動車整備士	②	64人	64人	日本語能力試験 N1	③	9人	1人	日本語能力試験 N2	③	63人	9人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
2級ガソリン自動車整備士	②	64人	62人																								
2級ジーゼル自動車整備士	②	64人	64人																								
日本語能力試験 N1	③	9人	1人																								
日本語能力試験 N2	③	63人	9人																								
中途退学の現状	中途退学者 : 9名 令和4年4月1日時点において、在学者 176名 (令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者 167名 (令和5年3月31日卒業者を含む) 中途退学の主な理由 一身上の都合により帰国、進路変更、除籍等		中退率: 5%																								
経済的支援制度	学校独自の奨学金・授業料等減免制度 : 有 特待生制度: 授業料3万円～全額を給付 (応募資格: 入学時、2年進級時ともに一定の条件を満たす学生) 日本語能力試験合格奨学金: 留学生を対象に、合格レベルによって3万円から10万円を授業料から減額 専門実践教育訓練給付 : 非給付対象																										
第三者による学校評価	民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.oist.ac.jp/																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

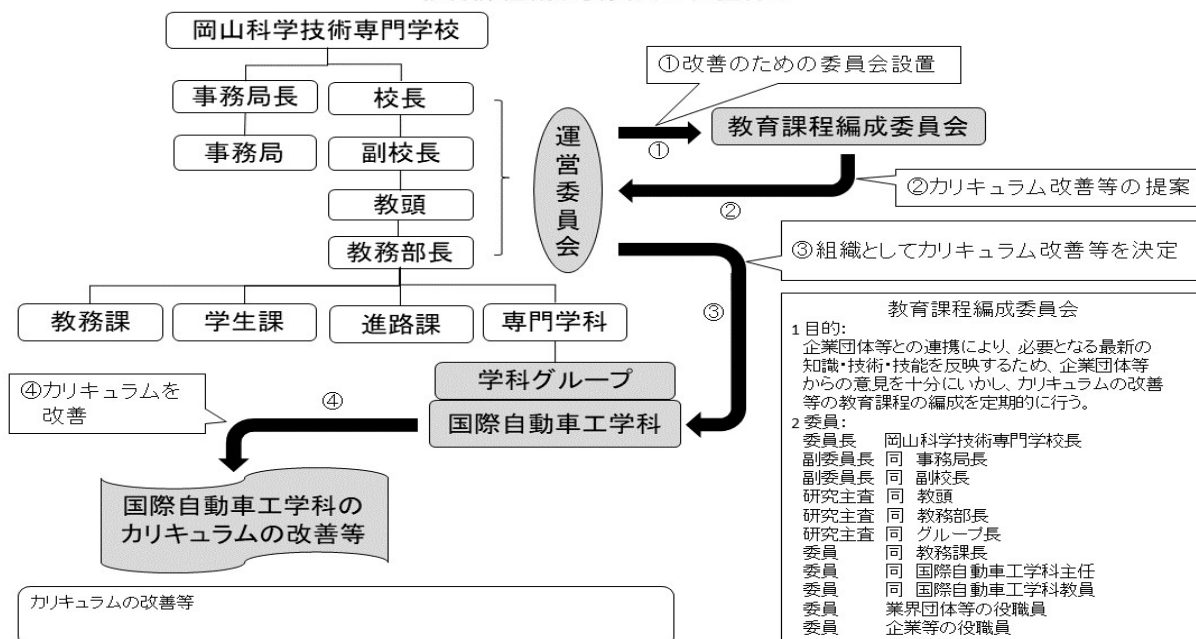
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 本学科は、自動車整備の関連業界で活躍できる人材を育成するために、関連企業と連携のもと、下記①～⑥の視点に基づき、業界の技術的動向や人材の育成にかかる情報等の収集や分析に努めるとともに、これらを踏まえた学科教育方針(教育課程や学習内容および育成する学生像等)を策定し、社会に貢献できる実践的技術者の育成を目標に専門教育を推進する。
 また、教育活動の推進にあたっては、学生による授業評価や管理職による公開授業評価等に加え、関連企業等との協議(教育課程編成委員会等)を通して助言や提言をいただきながら、教育課程に関わる指導内容や指導方法について検証(PDCAサイクル)するとともに、検証結果に基づいて次年度の学科教育方針を策定する。
 以上が、教育課程の編成に係わる企業等との連携の基本方針である。

- ① 地域における自動車整備の関連業界の動向について
- ② 自動車整備の関連業界において人材に求められる専門性の動向について
- ③ 求められる実務に関する知識・技術・技能・資格等について
- ④ 自動車整備の関連業界が求める人物像について
- ⑤ 自動車整備の関連業界における人材育成について
- ⑥ 整備実習に関わる指導プログラムについて

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学園組織図の「職業実践専門課程推進委員会」の下部組織として位置づけ、下図に示すように①運営委員会の指示のもと、教育課程編成委員会において企業関係者等から意見を聴取するとともに、現行教育課程の検証を行い、必要に応じて②運営委員会に教育課程の改善等を提案する。③運営委員会において提案が妥当であると決定した後は、④国際自動車工学科の学科教育方針の見直しを行い、座学および実習の指導内容等の改善を図る。なお、年度末の教育課程編成委員会においては改善後の評価等を実施するとともに、翌年度の教育課程の編成にいかす。

教育課程編成委員会の位置付け



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大月 秀之	岡山科学技術専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	
小野 裕明	岡山科学技術専門学校 事務局長	〃	
宮元 秀幸	岡山科学技術専門学校 副校長	〃	
平野 裕久	岡山科学技術専門学校 教頭	〃	
小川 栄二	岡山科学技術専門学校 教務部長	〃	
永岡 淳	岡山科学技術専門学校 教務課長	〃	
伊丹 直毅	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 グループ長	〃	
山本 裕二郎	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 教員	〃	
武田 保晴	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 教員	〃	
橋口 昌文	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 教員	〃	
川上 学	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 教員	〃	

赤木 晴彦	一般社団法人岡山県自動車整備振興会 事業部 係長	〃	①
松下 洋	スズキ岡山販売株式会社 サービス部 執行役員 部長	〃	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月～7月、2月～3月)

(開催日時)

第1回 令和4年7月14日(木) 13:30～15:30

第2回 令和5年3月10日(金) 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記

【提言】

- ① 企業にとって整備士が不足している状況が続いている上に定着率が下がっている一つの原因として人間関係の問題がある。特に日本語力の低い留学生はコミュニケーションがうまく取れず孤立しがちである。企業としても可能な限り1拠点に留学生を複数配属する様に努力はしているが限度がある。学校としても日本語力強化(特にコミュニケーション能力)をお願いしたい。
- ② 多くの先進技術が出てきており、学生の興味の維持の為に企業と連携した授業を継続して行ってほしい。企業側としても協力したいので相談してほしい。

【活用・改善】

- ① 学校としても同様に感じている。読み書きは出来るが聞く話す能力が低い学生も見られる。通常の自動車の授業に加えて日本語の授業も盛り込む様にする。
- ② 多くの企業から協力を頂いているが、定例になっているものも何例もある。今後は協力頂ける企業を増やせる様に努力する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、学科教育は学科教育方針に基づき目指す学生像を到達目標におき教育活動を推進している。中でも実習指導は実学主義の観点から、高度な技術・技能について指導する必要がある、企業との連携は不可欠である。そこで、企業との連携にあたっては、自動車整備関連の業界において高い技術力を有するとともに、知識・技術・技能について指導力があり、技術者としての態度やマナー等の指導にも十分な理解と協力が得られること等を重視し決定する。

企業等との連携に基づく実習は、科目「エンジン(点検・分解・組立・調整・検査)故障原因探求」とし、諸条件を満足する企業を選定するとともに、協定書等を締結これに則り実施する。以上が企業等との連携の基本方針である。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

○企業の選定と協定:連携の基本方針の条件を満たす企業として、学科で計画している実習内容に理解をいただき、かつ実習指導が可能な企業をお願いした。職務内容等の契約事項については、実習に先だって協議を行い、連携企業の専門的知見を活かした実習内容を取り入れるなど、十分な打ち合わせを行い協定書として締結した。

○連携企業: 株式会社 MGH

○特別講師: 池田 高德 氏

○連携内容: 株式会社 MGH から招聘した特別講師が、担当教員と連携して2年科目「自動車整備作業」において、令和5年度で2回(11月と2月)指導する。

○指導内容: 特別講師が、専門的知見に基づき自動車業界をとりまく環境、自動車整備士の役割等について講話するとともに、自動車の各構成部品の分解組付け及び点検整備や故障診断技術について実車を用いて実技指導する。また、リアアクスル単体でブレーキの調整方法や、ブレーキシューの交換方法を学び2月に行われる年度末試験の課題とする。併せて技術者として求められる態度やマナーについて指導する。

○目標到達: リアアクスル単体のブレーキ調整について1人で10分以内に正確に調整できること。

○評価: 実習終了時に特別講師の評価を踏まえ、翌年2月の年度末試験の点数で評価する。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
自動車整備作業	① 大型車におけるブレーキの構造を理解し、タイヤの脱着やブレーキシューの交換方法、ブレーキの調整方法を学ぶ。	株式会社 MGH

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員の研修等については、本校教職員研修規程、ならびに下記(1),(2)に示す研修項目に基づき、教職員の経験や能力に応じた研修計画を、法人の指示のもと教務において作成し、学科主任ならびに関係教職員に受講させるものとする。受講を命じられた教職員はこれに参加し、専門職として求められる技術力や指導力の向上に努めなければならない。

研修成果は、報告書にまとめるとともに、内容によっては受講者が関係教職員に伝達講習し主旨等の徹底を図る。

また、教職員は、日頃より自己研鑽に励むとともに、指導力の向上に向けた授業研究や研究紀要への投稿等に取り組み、以て本校教育の充実・発展に資するよう努力することを基本方針とする。

(1)自動車整備分野における実務に関する研修等

- ① 企業、団体が主催する専門技術研修
- ② 企業から講師を招聘した専門技術研修
- ③ 専門技術・技能の伝達講習
- ④ 教員の技術レベルに応じた専門技術研修

- (2) 指導力の修得・向上のための研修等
- ① 専修学校教員 教職課程研修
 - ② 企業、団体主催の指導力育成研修
 - ③ 外部講師による指導力育成研修
 - ④ 職務分掌上の業務に関する指導力育成研修

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- (1) 研修名: SUBARU技術研修会 (連携企業等: 中四国スバル販売株式会社)
- 期 間: 令和4年10月26日(水)
- 対 象: 国際自動車工学科(武田保晴、伊丹直毅)
- 内 容: ①スバルの新技术紹介(講義)
- ②スバル車の整備体験と工場見学

- (2) 研修名: ニッサン技術講習会 (連携企業等: 日産サテオ岡山販売株式会社)
- 期 間: 令和4年11月22日(火)
- 対 象: 国際自動車工学科(武田保晴、伊丹直毅)
- 内 容: ①ニッサンのクルマづくり 自動運転技術や電気自動車の紹介(講義)
- ②実車を使った自動車技術の操作体験(実習)

- (3) 研修名: スズキ技術講習会 (連携企業等: スズキ岡山販売株式会社)
- 期 間: 令和4年11月22日(火)
- 対 象: 国際自動車工学科(武田保晴、伊丹直毅)
- 内 容: ①スズキのクルマづくり 先進技術の紹介(講義)
- ②実車を使った故障診断機の操作体験(実習)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- (1) 研修名: 「学生指導にコーチングスキルを活かす」
- 講 師: 稲垣友仁氏 共創コーチング株式会社 代表取締役
国際コーチング連盟認定プロフェッショナルコーチ
- 期 間: 令和5年3月7日(火)
- 対 象: 国際自動車工学科(武田保晴、山本裕二郎、橋口昌文、伊丹直毅)
- 内 容: 心理検査Hyper-QUを活かした学生指導。検査結果データを読む。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- (1) 研 修 名: スズキフレッシュマンセミナー (連携企業等: スズキ岡山販売株式会社)
- 期 間: 令和5年5月25日(木)
- 対 象: 国際自動車工学科(伊丹直毅)
- 内 容: ①折箱及びタワー作りから学ぶ仕事の基本
- ②5Sの重要性
- ③仕事で大切な8つの意識について

- (2) 研修名: いすゞセミナー (連携企業等: いすゞ自動車中国四国株式会社)
- 期 間: 令和5年5月24日(水)
- 対 象: 国際自動車工学科(山本裕次郎、伊丹直毅)
- 内 容: 自動車業界を取り巻く環境、自動車整備士の役割等についての専門的知見に基づく講義と、実車を用いた各構成部品の分解組付け及び点検整備や故障診断についての実技指導からなる研修である。また、エンジン及び動力伝達装置や制動装置等の性能試験のデモンストレーションも行う。併せて、技術者として求められる態度やマナーについても指導いただく。

- (3) 研修名: スズキ技術講習会 (連携企業等: スズキ岡山販売株式会社)
- 期 間: 令和5年7月11日(火)
- 対 象: 国際自動車工学科(山本裕次郎、伊丹直毅)
- 内 容: ①スズキのクルマづくり 先進技術の紹介(講義)
- ②実車を使った故障診断機の操作体験(実習)

② 指導力向上のための研修等

- (1) 研修名: 「社会人としてのマナー及び文章講座」(連携企業等: 岡山科学技術専門学校教務部)
- 期 間: 令和5年8月25日(金)
- 対 象: 国際自動車工学科(武田保晴、山本裕二郎、橋口昌文、伊丹直毅)
- 内 容: ①ルールとマナーとエチケット
就職と直結する専門学校において、社会人になった際、どのような「マナー」「ルール」「エチケット」が必要なのか、あらためて学ぶ。
- ②分かりやすい文章の書き方
主語と述語、修飾語と被修飾語の適切な関係や、小論文に使える構成などについて事例を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の学校関係者評価は、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について、学校関係者評価委員会において協議し、現状の課題や問題点を洗い出し、改善点等について助言や提言をいただくものである。また、その助言・提言を運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき具体案を作成する。これを以て次年度の学科教育方針の見直しや学校運営等の改善に取り組むことを基本方針とする。

特に、学科教育については、資格取得や進路状況の他、教育課程編成委員会からいただいた助言や提言に基づく改善点等についても協議し、学科改善の指針とする。

なお、自己点検・自己評価、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく自己評価表、学校関係者評価はホームページ上で公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像 ②学校の特色 ③学校学科の将来構想
(2) 学校運営	①運営方針 ②事業計画 ③意志決定機能 ④人事・給与規程 ⑤情報公開 ⑥業務の効率化
(3) 教育活動	①教育理念に沿った教育課程 ②教育到達レベルや学習時間 ③カリキュラムの体系化 ④授業評価 ⑤成績評価・進級・卒業判定 ⑥資格取得の指導体制 ⑦教員の確保 ⑧教員の資質能力の向上 ⑨教員研修の実施
(4) 学修成果	①就職率 ②資格取得率 ③退学率の低減 ④卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	①進路・就職の支援体制 ②学生相談の体制 ③経済的支援の体制 ④健康管理体制 ⑤課外活動 ⑥学資負担者との連携 ⑦卒業生への支援
(6) 教育環境	①施設・設備の整備 ②学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修の教育体制 ③防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動 ②教育成果の伝達 ③学納金
(8) 財務	①中長期的財務基盤 ②予算・収支計画 ③会計監査 ④財務情報の公開体制
(9) 法令等の遵守	①法令・設置基準等の遵守 ②個人情報の保護 ③自己点検・自己評価の実施 ④自己点検・自己評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設の活用 ②学生のボランティア活動 ③公開講座、教育訓練の受託
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

○学校運営の改善

【質問・提言】

(1) (企業) 教育活動方針における重点項目の最上位に「6S管理の徹底」を置いているのはなぜか。

(2) (PTA) 教職員の残業の制限について、どのように対応しているか。

【回答・改善等】

(1) (学校) これまで十分にできていなかったため、より力を入れていこうという狙いがある。

(2) (学校) 突発的な学生指導や保護者対応、学校行事(校外研修など)に関わる場合など、それぞれ上限を定めて対応している。

○学科教育活動の改善

【提言・質問】

(1) 日本語能力向上の取り組みを聞かせてほしい。どの企業でも最低N3程度の日本語力が必須と考えている。

【回答・改善等】

(1) 留学生向けの特別コースとして、日本語授業の実施に取り組んでいる。。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
栗田 真志	株式会社プローバ 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
小上 敏寿	旭電業株式会社 総務部総務課 係長	〃	〃
山本 泰三	株式会社機能性食品開発研究所 取締役 農水産事業部長	〃	〃
宮西 司郎	協立土建 株式会社 代表取締役	〃	〃
田中 浩二	西尾レントオール株式会社 中国・四国地域管掌 取締役	〃	〃
岸本 晋一	ゼノー工具株式会社 常務取締役	〃	〃
近藤 康史	両備システムズ 営業本部 公共営業統括部 文教ビジネス営業部次長	〃	〃
横田 直樹	株式会社丸文 代表取締役	〃	〃
岡本 径	ネットヨタ岡山株式会社 営業本部 サービス部 副課長	〃	〃
齊藤 雅崇	株式会社ティーエス自動車 玉島事業所 専務取締役	〃	〃
藪田 尊典	岡山科学技術専門学校 同窓会 会長	〃	卒業生
長門 信和	岡山科学技術専門学校 学生支援会 会長	〃	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
 URL <https://www.oist.ac.jp/report.html>
 公開時期:令和5年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等に対して、公教育機関としての透明性の確保と説明責任を果たすため、本校の教育活動および学校運営状況等について、文部科学省の「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、情報を広く公開する。以て、企業等の学校関係者から支持や信頼を得るとともに、適切な情報を提供することにより、高校生等の学校選択の一助となることを基本に、分かり易く見やすい情報発信に努める。
 この他、情報提供について他校との差別化を図るため、本校の教育力や教職員の質的レベルの高さを示すものとして教育活動方針ならびに研究紀要を公開し、本校教育の実際の姿を周知する。
 以上が、情報提供の基本方針である。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校組織、教育活動方針、沿革、設置学科、学生数
(2) 各学科等の教育	・目指す学科像、育成する学生像、資格取得上の特典等
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・インターンシップ、進路講演会、企業説明会 ・教職員の研修会の参加、研究紀要
(5) 様々な教育活動・教育環境	・広報新聞、技術協議会、展示会、校外研修 ・スポーツクラブ、学生寮の整備
(6) 学生の生活支援	・アルバイトの紹介、教育相談、学生支援会、企業後援会 ・同窓会
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・奨学金制度
(8) 学校の財務	・資金収支計算書 ・貸借対照表
(9) 学校評価	・自己点検・自己評価 ・自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
 (○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
 URL <https://www.oist.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際自動車工学科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		自動車工学 力学、数学、図面、燃 料、潤滑、材料	力学、数学、図面、燃料、潤滑、材料について学ぶ。	1 通 2 通	108		○			○	○	○		
2	○		自動車工学 構造性能 (ガソリン)	自動車概論・ガソリン・エンジンについて学ぶ。	1 前 2 後 3 後	80		○			○	○	○		
3	○		自動車工学 構造性能 (ジーゼル)	ジーゼル・エンジンの構造、作動について学ぶ。	1 後 2 後 3 後	80		○			○	○			
4	○		自動車工学 電気・電子理論	電気、電子理論について学ぶ。	1 後 2 後	64		○			○	○			
5	○		自動車工学 構造性能 (シャシ)	自動車のシャシ全般の構造、作動について学ぶ。	1 通 2 後	108		○			○	○			
6	○		自動車整備 エンジン・故障探求 (ガソリン)	ガソリン・エンジンの故障修理の方法を学ぶ。	2 前 3 後	48		○			○	○	○		
7	○		自動車整備 エンジン・故障探求 (ジーゼル)	ジーゼル・エンジンの故障修理の方法を学ぶ。	2 前 3 後	48		○			○	○			
8	○		自動車整備 シャシ・故障探求	自動車のシャシ全般の故障修理の方法を学ぶ。	2 前 3 前	64		○			○	○			
9	○		自動車整備 電装・故障探求	自動車の電装品について故障修理の方法を学ぶ。	2 前 3 前	64		○			○	○			
10	○		機器の構造取扱 整備機器・測定機器	整備時に使用する機器や測定時に使用する機器について学ぶ。	1 前	20		○			○	○			
11	○		機器の構造取扱 検査機器	検査時に使用する機器の使用方法を学ぶ。	3 前	20		○			○	○			
12	○		自動車検査	自動車の検査について基準や方法を学ぶ。	3 前	32		○			○	○			
13	○		自動車法規 自動車整備に関する法規	自動車についての法令を学ぶ。	3 後	32		○			○	○			
14	○		手仕上げ工作・機械工作	ヤスリや電気ドリルなどを使用して工作作業を学ぶ。	1 前	24					○	○	○	○	
15	○		基本測定	自動車全般について測定方法を学ぶ。	1 前	48					○	○	○	○	
16	○		自動車整備作業	自動車の点検・分解・組立・調整方法について学ぶ。	1 通 2 通 3 通	1308					○	○	○	○	
17	○		自動車検査作業	自動車の検査作業の内容や方法について学ぶ。	3 後	60					○	○	○		
18	○		ホームルーム	学生、人としての義務や責任、生き方、人間関係作り等について学ぶ。	1 通 2 通 3 通	192		○			○	○			
合計					18科目		2,400単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件：次の条件を満たしていること。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。 ○履修方法：全科目必修	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	講義16週 実習18週